

～ Serving the *Community* and Supporting the *YMCA* since 1976 ～



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ：Alexander Scholarship Fund

2023年
10月



2023-24年度 クラブテーマ「地域と繋がろう・地域に知らせよう」



第35回ユースボランティア・リーダーズフォーラムが9月29日から10月1日まで、東京YMCA山中湖センターで開催され、東日本区内のYMCA所属リーダー31名が参加。「私たちにとっての『見つかる。繋がる。良くなっていく』」という日本YMCAが掲げるテーマをリーダーたちが日常活動に当てはめて議論した。(写真 衣笠メン提供)



今月の聖句

あなたがたのうちに、知恵に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神にもとめなさい。そうすれば与えられます。

ヤコブ書 1章5節

10月「パレスチナを思う」例会 案内

日時：10月21日(土) 午前10時～12時
会場：浦和YMCA 北浦和駅西口 歩4分
プログラム：ジェンダーを学ぶ(3)
歌：金比羅船船



10月 よる談会

・気楽に知り合い、和めるまじめな会

日時：10月9日(月) 午後6時～8時
会場：サイゼリア(浦和駅東口)

* 自由な話題で話を進めます。

～ エッセイズ ～

◆ 「高齢者よ、恋をしよう」

映画「こんにちは、母さん」を見て

深尾 香子

上松寛茂



かつて、地元で「女性の社会活躍の…」という会合に巻き込まれ、しばらく活動したことがある。LGBTQ だの、フェミニズムだのという言葉を一気に浴びることになり、学びは多かったが「なんか違うぞ？」とも感じた。後で調べたが、わが国では一時期、それらの運動が盛んだった時（註）があったが、その後大きな支持は得られなかったらしい。

私が出会ってきた女性の市民活動の担い手たちは賢い。決して男性に従属している訳ではなく、むしろ上手に男性を利用しつつも、お互いがハッピーだったりする。先の会合で居心地が悪かったのは恐らく、声高に男だ、女だとか、不平等だと言葉にすることに共感出来無かったためだと思う。



ところで昨年メネットが我々から独立して別組織として活動する事が出来る。という話題に直面し、当時、部長職を拝していたため、心配と好奇心とを覚えつつ、四ツ谷の事務所で開催された会合にオブザーバー参加してみた。結果、メネットとしての役割（メンの活動を支える＝ワイズの伝統だと学んだが、合っている？）を十分に理解し、それを良しとして大いに意義を感じ、真摯に取り組み、かつ楽しく活動しておられることを知って一応安心した。その後、メネット会員が東日本区から独立したという話は聞いていない。

これらの経験から「現在 在籍者には過激な人はいないのだろうか。」と考えてはいるが、今後、多様性に富む優秀な人たちの入会を期待するなら、団体としての考え方や名称変更を柔軟に行うことも視野に入ることになろう。前例を廃したと云ってワイズ 100 年の歴史が揺らぐことは無いのだから。❖

（註）1980 年代半ば青木やよひ氏、上野千鶴子氏など。文中写真は多摩市の男女平等社会参画事業で「武家社会の男女平等」について話した時のもの。（筆者提供）



山田洋次監督、吉永小百合主演の松竹映画「こんにちは、母さん」を見た。東京・下町を舞台に足袋職人の夫に先立たれたおばあちゃん神崎福江の役を、私と同じ 1945 年生まれの吉永小百合が、息子昭夫を大泉洋がそれぞれ演じている。下町に暮らす親子の風景は山田監督の「男はつらいよ」の寅さんシリーズそっくり。どこにでもある平凡な暮らしが展開される庶民の生活の中で、夫婦や親子の関係、企業社会でのリストラ問題、ホームレスへの炊き出しのボランティア活動、高齢者の恋愛模様など現代社会の問題点にも鋭く視点を向けたコメディタッチで描かれている。

一流企業の人事部長として同期入社の親友（宮藤官九郎）にリストラを言い渡す立場で苦悩する昭夫が、別に暮らす母親宅を訪ねるシーンから映画は始まる。妻との離婚問題に悩み、祖母と暮らす大学生の娘（永野芽衣）との不和で右往左往する昭夫は、ホームレス（田中泯ら）の支援活動などで生き生きと暮らしている母さんを見て驚く。母さんはこの活動を通じて知り合った教会の牧師と恋をしていることを知り、「やめてよ」と思わず叫ぶ。娘は「いいじゃない。素敵よ」と言い返す。隅田川を見下ろす喫茶店でデートする場面にドビュッシーのピアノ曲が流れる。最後は寺尾聡扮する牧師は北海道・別海町の教会に転任、失恋で酒を飲み酔っぱらう母の姿は印象的だ。「高齢者だって恋をしていいのだ」という山田監督の熱いメッセージが伝わってくるようだった。同期入社の親友の会社残留を上司に上申、自分が退職して自由な世界に羽ばたこうとする息子と一緒に暮らすことになった母さんは息子に寄り添う。下町の夜空に花火が打ち上げられ、母子がそれを見上げる光景がラストシーン。

山田監督が大学生の頃に両親は離婚、母親が再婚相手と群馬で生活しているときに川越 Y's クラブの吉野勝三郎メンと教会で交流したというエピソードも記しておく。山田監督の人生を反映した映画といえるかもしれない。❖



（註）本映画のチラシは松竹映画・宣伝部からブリテン用に提供していただきここに掲載するものです。

World YMCA News

世界 YMCA の最近のニュースから面白いと思う記事を勝手にピックアップしてブリテンに掲載します。公式の日本語訳ではありません。心配なメンは原文に当たってください。(浅羽)

1) 世界同盟が EU がパートナーシップに入る

去る 10 月 4 日世界 YMCA 同盟を含む 6 大世界青少年団体（一般に“Big Six”と称する）と欧州連合 EU はナイロビ市内でユースによる SDGs 推進活動を支援する「EU ユース・エンパワメント基金」を創設するパートナーシップを提携したことを発表。この基金はグローバル・ユース・モビリゼーション (GYM) の枠組みの中で若者と EU が協力して「回復力・包摂力・持続力のある未来社会」を作ることを目指す。初回は 1000 万ユーロが拠出され、若者が地域社会に貢献するための資金となる。

* GYM は 2020 年に Big Six（世界 YMCA 同盟、世界 YWCA、ボーイスカウト、ガールスカウト、国際赤十字赤新月社とエジンバラ公国際アワード）が連携して始めた若者を主役に据える世界運動で、現在カルロス世界 YMCA 同盟総主事が議長。）

2) 世界同盟チーム、朝鮮戦争終結運動を支援



10 月 4 日、カルロス世界同盟総主事他 YMCA リーダーシップ・スタッフ・チーム (GST) はソウルで記者会見し、朝鮮戦争停戦 70 周年を機に、韓国の市民団体の朝鮮戦争終結に向けた平和運動をこれからも支援し続けることを再確認。合わせて世界 YMCA 平壤連絡事務所 (Liaison Office) と済州島に設立予定の YMCA 国際平和・エコロジー・センター (International Jeju Global Peace & Ecology Center) の二つの計画をも支援する考えを明らかにした。済州島は現在香港にあるアジア太平洋 YMCA 同盟事務所の移転先でもある。

3) イスラエル・ハマス紛争について：カルロス総主事のメッセージ（抄訳）

「目を覆いたくなるイスラエル・ハマス間の戦闘が拡大するのを前にして、私たちは祈る。それしかできない。私はガザ YMCA のハニ・ファラと連絡が取れ、今のところ彼も職員も無事だ。彼は 100 人ほど

の市民とともに避難している。また東エルサレム YMCA のピーター・ナシルとサイモン・クーバも無事だ。彼らからは祈り続けることを求められた。

この問題について色々意見はあろうが、はっきりしていることは人々が艱難にあり、その数がこれからも増えること。だから私たちは祈らなければならない。私たちは平和を追求する団体だ。だから平和と正義のために祈らねばならない。神様が聞いてくださるから。そして希望を絶やさないために」

YMCA の小窓から

この夏、特別支援プログラムでは、Big Smile サマーキャンプ、キラキラサマーキャンプを実施し、浦和、川越、所沢の特別支援のクラスに在籍している子どもたちが合計 26 名参加しました。

Big Smile サマーキャンプは 8/18~20 の 2 泊 3



日、群馬県のおおくら荘にて実施いたしました。川遊びや野外炊事、キャンプファイヤーなどをして、子ども

たちは夏を満喫していた様子でした。

コロナ禍以降実施できていなかったキラキラサマーキャンプは、8/26~27 新潟県の大峰館にて久しぶりに実施することができました。水遊びや流しそめん、いもほりなどをして、みんなでのんびり過ごすことができました。

キャンプの準備、当日は大変なことも様々ありますが、子どもたちが全力で楽しんでいる様子や、たくさんの笑顔を見ると、実施してよかったと感じることができます。

また、それぞれの子どもたちの特性に配慮してキャンプを行っていますので、保護者の方たちからも、安心して預けることができる、などの声をいただきました。

冬のキャンプに向けての準備も始まっています。これからも参加する子どもたちや、その保護者にとって有意義なキャンプを実施していけるように努めていきたいと思ひます。（浦和 YMCA 職員 水上真帆）



埼玉ワイズは埼玉浦和 YMCA を応援します。

諸報告

◆ 9月定例会



9月16日(土)午前10時から浦和YMCAに定例会を開催。「ジェンダーを学ぶ(2)」がメインテーマ。現役時代に大正大学にてジェンダーやフェミニズムを研究された矢野和江氏が特別ゲスト。

まず衣笠メンの進行で、テキストにそって「男女平等をめざす中での女子校の意義」を話し合い、そこからは自由討議。矢野氏がジェンダー研究の発展を過去に遡って紹介してくれたのが非常に参考になった。特にアメリカの研究者であり、同時に社会変革活動家だった黒人女性の話は印象的だった。

ジェンダー学習は始まったばかりだが、既に色々な出会いや気づきがあった。課題は学んだことを日常生活にどう活かすかだ。今後が楽しみだ。(浅羽 記)

ゲスト・ビジター：矢野和江、山本俊明、長谷川 裕、浅羽 恵 (敬称略)

メン：上松、衣笠、堀和、小谷、浅羽

* 山本俊明氏は元聖学院大学総合研究所長で、浅羽 とは大学ゼミが同じ) 矢野和江氏とは夫婦。

◆ 第35回ユースボランティア・リーダーズフォーラム (YVLF)

概要報告

- 日時：2023年9月29日(金)～10月1日(日)
- 場所：東京YMCA山中湖センター
- 参加者
リーダー数 : 31名
カウンセラー : 5名
YMCA ユーススタッフ : 3名 (北海道YMCA、群馬YMCA、横浜YMCA)
事務局スタッフ : 2名 (東京Y山手センター)
ワイズメンズ : 26名 (部分参加含め)
- テーマ：「私たちにとっての みつかる。つながる。よくなっていく。」
- 基調講演：小倉哲氏 (もなかリーダー) ご夫妻
- 聖日礼拝：奨励：衣笠輝夫、司式：大澤和子
・ YVLF 実行委員長：衣笠輝夫メン
・ 現場の雰囲気は表紙ページ参照。

(衣笠 記)

* 参加リーダーの感想文・報告書を期待します。

◆ 10月夜談会 メモ

数日前から秋らしい日和になった10月9日(スポーツの日)に夜談会を開催。会場は浦和駅東口のサイゼリア。先月は男子ウエイター、今回は女子で、私たちに優しくかった(註)。



ゲストの森下千恵子さんは元川越ワイズ。久しぶりの再会だった。澁刺としていて積極的に話に参加してくれた。また初めて参加の川崎達治さんも人見知りすることなく話し合いに加わり、大いに盛り上がった。

ゲスト・ビジター：川崎達治、森下千恵子、大輪匡史(敬称略)メン：上松、衣笠(途中退席)、浅羽(註)ジェンダー的には「ウエイター」だろうが、女性を強調したくて「女子」を挿入した。(浅羽 記)

◆ 今月の俳句 堀和メン(俳号 愚道)

① 半世紀経って見たら秋の空

半世紀という言葉に感動しました。「半世紀前でも二十歳なんだ」あと半世紀は無理なんだから毎日を大事に生きよう。それにしても秋の空はきれいだな。

② 彼岸花見れば見るほど宇宙人

じっと観察はしていないけれど葉っぱはないし、髭のような手のような決してきれいとは思えない花ではないでしょうか。

③ 老ひぼれて満月かすむ迷い猫

迷い猫は勿論私ですが、中秋の名月も霞んで見えてしまいます。

俳句の基本は写生句と先生に教わりましたが、ちよっと間違ると説明句になってしまいます。私はやはりその時の感情を読みみたいと思っています。

出席者 統計	出席者	会員	ゲスト/ビジター
9月 例会	8	4	4
10月 夜談会	6	3	3

